

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 2020年10月27日

派遣決定番号

## 地域情報化アドバイザー制度活用報告書(4日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	長崎県佐世保市情報政策課	代表者名	久田 忠勝
担当者部署	情報政策課	連絡先電話番号	0956-24-1111
担当者役職	主任技師	担当者氏名	諸國 敬
住所	857-8585 長崎県佐世保市八幡町1番10号		

#### 1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	牛島 清豪
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	講義が滞りなく開催できたため。会議のまとめの際に異論などなく、オープンデータにどのように取り組めばいいのか参考になったように感じたため。
アドバイザーへの要望事項	講義後の反省と、今後の展開について担当職員の検討について、他の市町村の事例があれば交えて助言の再確認を行いたい。

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2020年10月23日	9時50分	10時50分		60
	派遣形態	講演(オンライン)			

### 4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

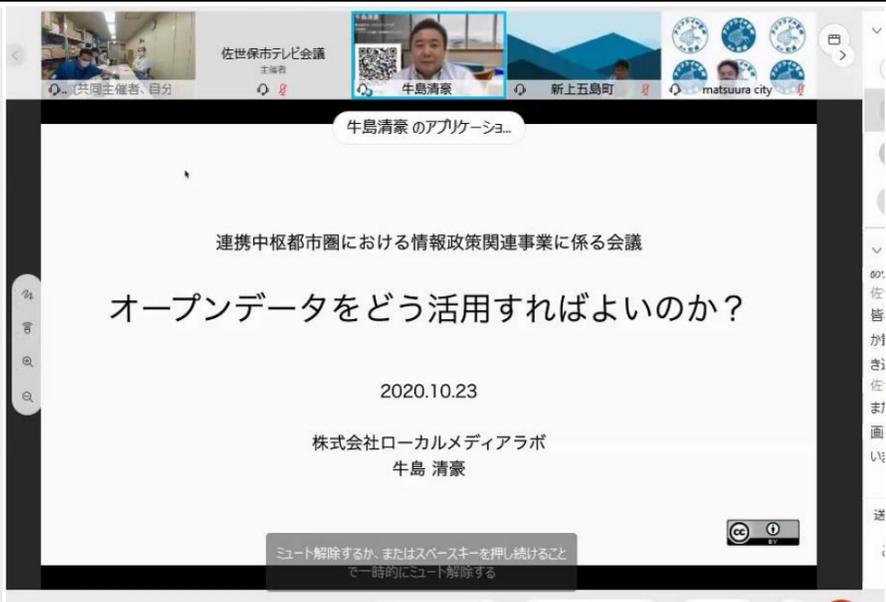
掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	協力関連自治体職員・佐世保市職員	24人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	オープンデータ事業の進め方について明確な方針を打ち出せていなかった関連自治体についてどのようにメリットを見出して事業を展開していけばよいか明確な方針ができた。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	各市町のメリットの明確化による、継続的な事業推進活力の維持。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	協力関連自治体全体 ①業務効率化に活かせるオープンデータの種類について情報提供をいただきました。 ②データ公開の際に業務量をなるべく増加させないための考え方について情報提供を頂きました。	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	協力関連自治体全体 オープンデータを使用して業務効率化できる事務がある等、メリットが明確化できた。 これにより、「メリットが不明確」という課題が解決した。 データ公開の際に業務量が増加する問題について解決策を得た。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
	多人数が業務効率化のためには、どのようなデータをオープンデータとして充実させればよいか理解できたと考えます。また、業務量を増加させないデータ公開方法の基本的な考え方を理解できたと考えます。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	無し。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 オープンデータの取り組みについて、情報共有が中心であり今後活用できる分析を行えないと本市で判断したためアンケートを取りやめた。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他
事業の最終的な目指す姿	目標：継続可能な形で一つでも多くオープンデータを公開し続けられるような仕組みを作る。	

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



## オープンデータの意義

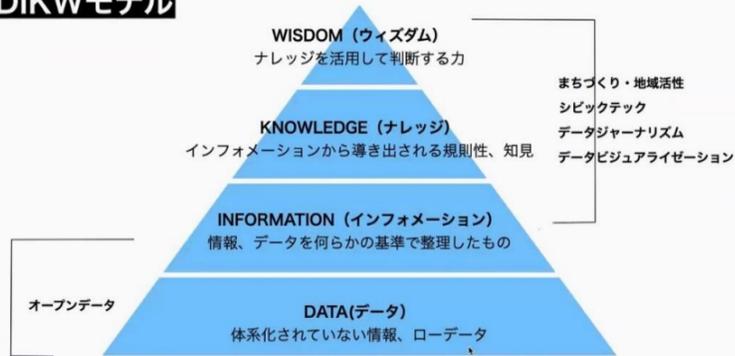
「オープンデータ基本指針」では、公共データの活用を促進する意義・目的を、次のとおり整理しています。

1. 国民参加・官民協働の推進を通じた諸課題の解決、経済の活性化
2. 行政の高度化・効率化
3. 透明性・信頼性の向上

自治体においてオープンデータに取り組むに当たっては、上記の意義に加えて、公共データの公開と活用により地域の課題を解決するという視点も重要です。

内閣官房IT総合戦略室の資料より引用

## DIKWモデル



### 事例 マッピングイベント

誰でも編集できる地図「オープンストリートマップ」を使った地域の地図を作るイベントが全国で開かれている。2016年、Code for Sagaでは小城市との共催で、地元PTAの皆さんと小学校区の交通安全マップ作成。

通学路のチェック  
親子まちあるき

持ち寄ったデータを  
マッピング作業

通学路の危険箇所を地図にまとめ  
ウェブ上で公開

<https://code4saga.org/archives/334>